

甲 第 号

伊藤 雪絵 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲第	号	氏名	伊藤 雪絵
論文審査担当者	委員長		教授	奥地 一夫
	委員		教授	西尾 健治
	委員		教授	今村 知明
	(指導教員)			

### 主論文

Beneficiaries' Willingness to Pay for Resuscitation Provided by  
Ambulance Attendants: A Survey Using the Contingent Valuation Approach

(和訳) 救急隊員が実施する蘇生処置に対する受益者の支払意思額: 仮想市場調査法を用いた調査

Yukie Ito, Manabu Akahane, Akie Maeyashiki, Toshio Ogawa,

Tomoaki Imamura

Health 1367-1377

Published: 22 September 2017

## 論文審査の要旨

日本では、高齢化の伸展に伴う救急医療の需要が加速度的に増すことが推定され、その財源の確保についてしばしば問題となっている。申請者は、救急隊員が実施する救急活動に焦点をあて、救急隊員が実施する蘇生行為に対する受益者の費用負担額に関する意識調査を実施した。医療従事者を除く一般住民へのアンケート調査により、院外心肺停止と仮定した状況において、1. 救急搬送のみ、2. 1に加えて胸骨圧迫を実施、3. 2に加えて気管挿管による人工呼吸を実施について、費用負担額を尋ね、救急隊員が実施する蘇生行為の費用を推定した。

回答者の過半数は、救急隊員が実施する蘇生処置に対する費用負担に賛意を示し、救急搬送に加えて胸骨圧迫や気管挿管による人工呼吸の蘇生処置が実施されるごとにその費用は高額となり、救急隊員が実施する蘇生処置に対して一般住民が費用的価値を有していることが明らかとなった。既存の調査において、具体的な医療行為及び処置に対する受益者負担額について検討した研究はなく、救急車利用に対する費用の具体的な金額についての受益者の考え方を初めて示した貴重な論文と考えられた。

本研究は、救急搬送の増加に伴うコスト増に対する課題に対して、受益者の負担を含めた検討の際の基礎的情報として活用されることが期待でき、有意義な研究と評価され、博士（医学）の学位に値すると考える。

## 参 考 論 文

1. 7対1看護導入の経営分析：600床規模の自治体病院の収益に対する影響について

松浦一、小川俊夫、伊藤雪絵、御輿久美子、赤羽学、今村知明  
医療情報学 2 (20) :77-83, 2011.

2. 看護師の就労継続をエンパワーメントする因子についての研究

加藤礼識、伊藤雪絵、吉田有希、水野静枝、御輿久美子、今村知明  
日本衛生学会誌 1 (70) :33-39, 2015.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに公衆衛生学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 30 年 3 月 6 日

学位審査委員長

救急病態制御医学

教 授 奥地 一夫

学位審査委員

総合臨床病態学

教 授 西尾 健治

学位審査委員（指導教員）

公衆衛生学

教 授 今村 知明